



---

---

## H25 人口減少問題プロジェクトチーム の取り組み

## H25 人口減少問題プロジェクトチーム の取り組み

### 1 平成 24 年度までの流れ

#### (1) 設立の経緯

南魚沼市で人口減少傾向が慢性化した現在、減少に歯止めをかける施策の実施のほか、人口減少時を認識したうえで新たな施策の検討・実現を行っていく必要があると考え、平成 22 年度に庁内に「南魚沼市人口減少問題プロジェクトチーム」を立ち上げました。

- ・主目的 人口減に対する危機意識の共有と市の将来人口関係資料の庁内公表、対策の共有、新たな人口対策施策の事業化
- ・副目的 職員意識改革と職員研修(課題解決訓練)

#### (2) プロジェクトの主な取り組み

##### (22 年度)

- ・人口増加施策(人口減少幅縮小対策)として取り組み可能な(取り組んでいる)施策の洗い出し。(企業誘致・子育て環境の整備など)
- ・人口減少に対応するために今後見直しが必要となる施策の洗い出し。(学校等の統合・施設運営コストの軽減など)

##### (23 年度)

- ・引き続き施策の洗い出しとブラッシュアップ
- ・施策実施に必要な事項の具体的検討・試算(財政、人員、など)
- ・プロジェクトチームによる部門間調整、修正 各部門の承認
- ・市方針(施策)の承認(市長決裁)
- ・人口減少時に廃止・縮小の可能性のある事業の洗い出し
- ・施策案の公表、庁内での意識共有

##### (24 年度)

- ・人口推計の推計年次の延長
- ・人口減少時に廃止・縮小の可能性のある事業の検討
- ・人口減少に影響を受ける事業の 10 年後-20 年後の事業費試算
- ・世帯数の将来推計
- ・過去 30 年の集落別人口の推移や周辺市町村の過去 20 年の人口推移等のデータ集計
- ・結婚に関するアンケート調査

### 2 25 年度の取り組み

#### (1) プロジェクトチーム再編成

プロジェクトチームは毎年少しずつメンバーの入れ替えはありましたが、25 度は新たにチームを編成し直し、検討する内容も変更しました。

「カイギ」から「コミュニケーション」「ワーク」へ

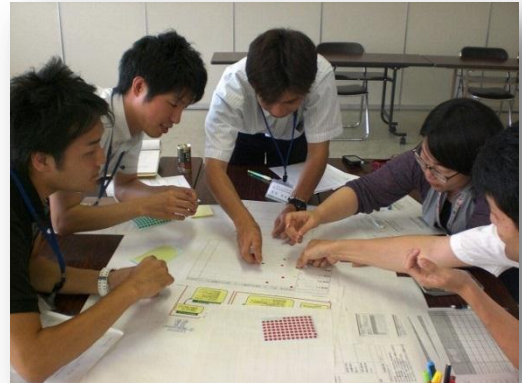
- 全員で行ういわゆる「会議」から、少人数での作業班に
- 発言できる機会を増やし、コミュニケーションを重視する
- 若い年代によるメンバー構成にして、柔軟な発想を取り入れやすくする

《チームの構成》

- 希望者のみで構成(部署毎の枠無し)  
概ね 40 歳くらいまで 17 人  
(うち事務局兼務 2 人)

《ねらい》

- 26 年度以降の政策決定のため
- 職員のスキルアップ



(2) 25 年度活動実績

回次	内容
第 1 回 PT会議 H25.7.10	班編成・人口減少の課題洗出し <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 3つのグループに</li> <li>■ グループワークにより、人口が減少すると何が困るのか、何を解決しなければならないかをまとめる</li> </ul>
第 2 回 PT会議 H25.8.12	班の提案の骨子をつくる <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第 1 回のふりかえり</li> <li>■ 個人提案のプレゼン</li> <li>■ グループワークにより、班として屋台骨となる提案を決定</li> </ul>
この間、班毎に検討作業を数回～十数回 若者まちづくり会議に参加 2 回	
第 3 回 PT会議 H25.11.25	プレゼンのリハーサル <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プレゼンテーション</li> <li>■ 質疑応答・改善のためのディスカッション</li> <li>■ 班毎に当日のための準備会議</li> </ul>

(3) 施策提案発表

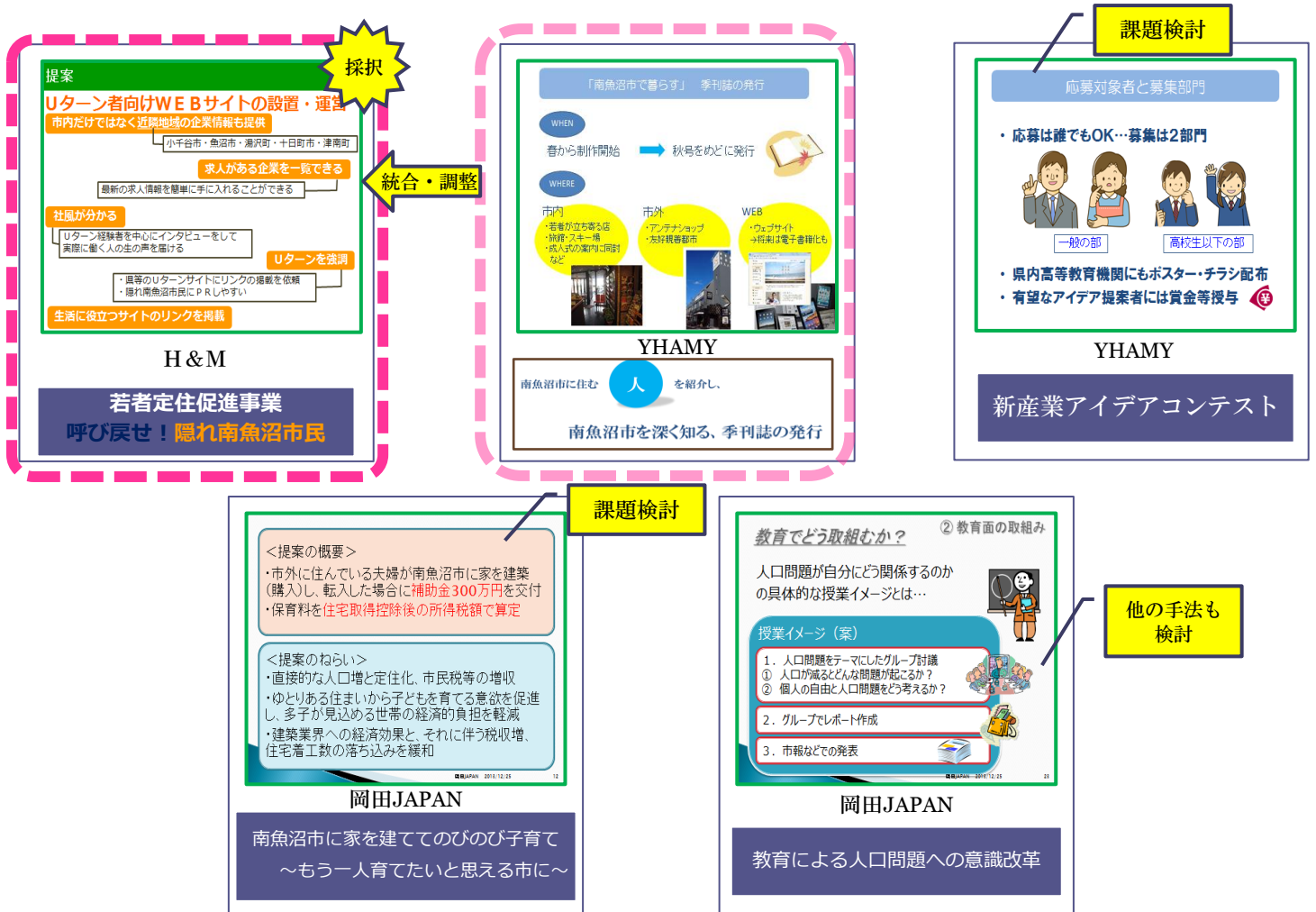
12 月 2 日、部長・次長クラスで構成される「主要事業検討会議」のなかで、人口減少問題プロジェクトの施策提案プレゼンテーションを行い、審査をしていただきました。

3チームから大きく分けて5つの提案が出され、1つの案が採択され、他4案については要検討となりました。



	提案のタイトル	提案の概要
1 班 チーム H&M	若者定住促進事業 —呼び戻せ！隠れ南魚沼市民—	隠れ南魚沼市民(市外へ転出した若者)を呼び戻すために Uターン者向け WEB サイトを設置・運営する ①市内のみならず、近隣地域の企業情報や求人情報が閲覧できる ②現時点で採用のある企業が一覧できる ③実際に働いている人の声わかる ④Uターンに役立つ生活情報関連のリンク集がある ⑤隠れ南魚沼市民にアピールしやすい
2 班 チーム YHAMY	新産業アイデア コンテスト	○南魚沼市の特産品や自然などの資源を活かした、南魚沼市ならではの 新産業のアイデアを募集。 ○審査により有望と思われるアイデアの提案者に賞を授与。 ○アイデアを持つ者とそれを実現しようとする企業等との橋渡しを行う。
	「南魚沼で暮らす」ライフスタイル提案の発信	市内の農業・建設業・工業・商業・観光業・伝統芸能などを、これらに関わる「人」を通して紹介する季刊誌を発行し、WEB サイトからも発信。 ※ターゲット層は 20～30 代。県外進学者や、市・県外に住む出身者 <紹介内容> 農業:こんなに美味しく高品質の作物を作っています 工業:実はこんな凄いものを作っています 観光:こんなおもてなしでお客様を歓迎しています 伝統芸能:歴史があり、魅力的な芸能が今に伝わっています 暮らし:素敵な暮らし方をしている人がいます ◎苦労もあるけれど、胸を張って地元で暮らす、これらに携わる「人」へ取材をし、体温が感じられる誌面にすることで、魅力が発信できる。
3 班 チーム 岡田 JAPAN	南魚沼市に家を建ててのびのび子育て ～ もう一人育てたいと思える市に～	<転入者住宅取得補助金の創設> 対象者:次の要件をいずれも満たしている世帯 ・転入前2年の間で夫、妻とも南魚沼市に住所を有していない ・夫婦の満年齢の合計が 70 歳以下である 条件:居住することを目的として、次のいずれかに該当する住宅を取得もしくは購入したとき ・土地を購入し、市内業者と契約して建築した住宅 ・市内業者が販売する土地付きの建売住宅 ・土地付きの中古住宅 補助金額:土地購入費用の半額(上限 300 万円)を補助金として住宅引き渡し後に交付 <住宅取得のために資金を借入れた世帯の保育料の軽減> 保育料を住宅取得控除後の所得税額で算定
	3本の矢～南魚沼市編～ ② 教育による人口問題への意識改革	人口問題の一つの要因として、「個人の自由」を優先する風潮があると考えた。単身世帯や晩婚・未婚者の増加について、「(結婚の)必要性を感じない」、仕事・学業・趣味を優先する意識、「自由や気楽さを失いたくない」などといった調査結果がある。 小学校又は中学校で「人口問題」「個人の自由」をテーマにした授業を行ってもらう。人口問題が自分の生活にどのように影響するかを理解させ、家庭や地域コミュニティの重要性についての学習を行う。 【利点】 ・設備投資や大幅な減税措置等、多額の費用負担が発生しない 【課題】 ・すぐに、人口の増加という結果が出るわけではない 直接的な因果関係が分かりづらいため、成果が判断しづらい

## 人口減少問題 PT 施策提案 審査結果 イメージ図



### 3 各提案の今後の進め方

## 若者定住促進事業 呼び戻せ！隠れ南魚沼市民

- 採択とし、平成 26 年度事業着手に向けて商工観光課を担当として準備を開始する

#### 【検討課題】

- やみー提案の『「南魚沼で暮らす」ライフスタイル提案の発信』とタイアップの可能性はないか
- 現状のWEB配信システムとの連携やグレードアップはできないか
- 企業や周辺市町村のメリットを提示して協力体制を確立できるか
- しっかりとした内部執行体制を確保し、旬な情報を発信できるか

## 新産業アイデアコンテスト

- 単独採択はできないが、下記について検討する

#### 【主な検討課題】

- どんな提案が出るか、どれだけ出るかで大きく成否が左右されるという不安要素→解決策はあるか
- 募集分野を絞ればどうか
- 審査方法および出されたアイデアの実現方法についての再考を

## 「南魚沼で暮らす」ライフスタイル提案 季刊誌の発行

- ・ 単独採択はできないが、下記について検討を継続する

### 【主な検討課題】

- ・ H&M提案: 若者定住促進事業と調整、統合して相乗効果を得ることができないか  
→H&Mと合同検討を
- ・ アイディアや人にスポットを当てたことは良いことだと思うので、観光パンフレット等の編集に活かさないか

## 南魚沼市に家を建ててのびのび子育て

- ・ 単独採択はできないが、下記について検討する

### 【主な検討課題】

- ・ 転入者の対象者条件の精査
- ・ 保育料軽減の効果の検証を  
→効果ありとみる人と、無しとみる意見に分かれた。また、保育料だけでなくトータルの子育て経費を試算し提案に活かしてほしい
- ・ 定住促進事業と調整、統合して相乗効果を得ることができないか  
→H&Mと合同検討を
- ・ 周辺との補助合戦にならないか、との懸念を払拭できるか

## 教育による人口問題への意識改革

- ・ 単独採択はできないが、下記について検討する

### 【主な検討課題】

- ・ 目の付け所は良く、国全体として取り組むべきとも考えられる事業だが、事業実施には多くの障壁があるので、同様なコンセプトで違った角度からの事業は考えられないか
- ・ 効果の測定ができるものにならないか、単発とまらない工夫は、などを克服して展開できる事業を発案

#### 4 今後のプロジェクトチームについて

- ・ プロジェクトチームについては、26 年度も活動を継続する。
- ・ 採択された事業のブラッシュアップ
- ・ 早期実施に向けて担当課と調整
- ・ 不採択事業の課題解決に向けての再検討または新規提案の構築